



北海道神経難病研究センター
2022年度活動報告

第11号

(2022年4月～2023年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 2022年度活動報告について
2. 北海道神経難病研究センターの概要
3. 2022年度活動報告
 - (1) 神経難病臨床研究部門
 - (2) 神経難病リハビリテーション部門
 - (3) 神経難病看護・ケア部門
 - (4) 神経難病医療相談・福祉支援部門
4. 北海道神経難病研究センター主催講演会
 - 神経難病セラピストの座談会
 - 北海道神経難病ケースカンファレンス
 - 第11回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会

1 2022年度活動報告について

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立した。

研究センター全体としての活動は、平成23年度活動報告、平成24年度活動報告、平成25年度活動報告、平成26年度活動報告、平成27年度活動報告、平成28年度活動報告、平成29年度活動報告、平成30年度活動報告、平成31年度は2019年度活動報告として発刊し、2020年度活動報告、2021年度活動報告に引き続き、今回、2022年4月～2023年3月までの活動を2022年度活動報告としてまとめました。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人が集まる会議・会合は控えられ、講演会もオンライン講演会となりましたが、2022年度後半からは対面講演会とWeb講演会を同時開催するハイブリッド講演会が開催されるようになりました。

各部門での活動のほか、北海道神経難病リハビリテーション研究会の第11回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会をハイブリッド講演会として開催し、神経難病緩和医療研究会講演会は新型コロナウイルス感染症のため中止されました。

これまでの多方面の方々からご支援賜りましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻下さりますよう、お願い致します

2023年4月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

2 北海道神経難病研究センター 概況

(1) 設置年度：平成 23 年 7 月 7 日

(2) 組織：北海道神経難病研究センター 最高顧問：田代邦雄
同 センター長・専務理事：森若文雄
同 代表理事：濱田晋輔

研究部門（主任研究者）：

- 1) 神経難病臨床研究部門（武井麻子、野中道夫）
- 2) 神経難病リハビリテーション部門（中城雄一）
- 3) 神経難病看護・ケア部門（佐藤美和、大久保暁子、
三谷理子、藤田恵巳子）
- 4) 神経難病関連（検査、薬剤、栄養）部門
（杉山和美、瀧元裕二、工藤麗子）
- 5) 神経難病在宅医療・地域医療部門（本間早苗）
- 6) 神経難病医療相談・福祉支援部門（下川満智子）

(3) 事業

- 1) 神経難病医療に関する臨床医学的調査・研究
- 2) 神経難病に関するリハビリテーション研究
- 3) 神経難病に関する看護調査・研究
- 4) 神経難病医療とその関連諸部門の学際的調査・研究
- 5) 神経難病に関する地域・在宅医療調査、研究
- 6) 神経難病医療に関する患者を中心とした環境調査・研究
- 7) 第1号から第6号まで掲げる調査・研究に対する研究助成
- 8) 北海道における神経難病医療に関する諸交流の推進
- 9) 神経難病医療に関する研究者の育成
- 10) 神経難病医療に関する諸成果の刊行
- 11) 神経難病医療に関する研修会・講演会・シンポジウム等の開催
- 12) 神経難病医療調査・研究に関する文献等の収集及び閲覧
- 13) 北海道における神経難病医療調査・研究の受託
- 14) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 2022年度活動状況：

(1) 神経難病臨床研究部門

神経難病臨床研究部門は、医務部が各部と連携して活動している。【研究業績】、【社会活動】、【教育活動】にわけて報告する。

【研究業績】

<原著論文>

1. 武井麻子：著しい dystonic tremor に botulinum toxin が著効した spinocerebellar ataxia type 2 (SCA2) の 1 例、Video J Movement Disorders (VJMD) 1(1/2):12-14, 2022
2. Hamada S, Takahashi-Iwata I, Satoh K, Kitamoto T, Mizusawa H, Moriwaka F, Yabe I : Genetic Creutzfeldt-Jakob disease with 5-octapeptide repeats presented as frontotemporal dementia, Hum Genome Var 10(1):10.1038/s41439-023-00237, 2023
3. Niino M, Fukumoto S, Okuno T, Sanjo N, Fukaura H, Mori M, Ohashi T, Takeuchi H, Shimizu Y, Fujimori J, Kawachi I, Kira JI, Takahashi E, Miyazaki Y, Mifune N. : Health-related quality of life in Japanese patients with multiple sclerosis. J Neurol. 270(2):1011-1018. 2023
4. 江口克紀：パーキンソン病における Device aided therapy, 札医通信 667; 13-16, 2023

<学会・講演会発表>

<2022 年度>

- 4月2日 深浦彦彰：MS キャビン You tube 配信
MS/NMO ガイドライン委員会（オンライン会議）
- 4月18日 ノバルティスファーマ株式会社講演会
深浦彦彰：Shared Decision Making-patient should be at the center-
- 5月9日 バイオジェン・ジャパン講演会
深浦彦彰座長
- 5月19～21日 第63回日本神経学会学術集会（東京国際フォーラム）
深浦彦彰 座長 神経免疫（臨床研究）04
田代 淳 座長 Parkinsonism and Related disorders 5
江口克紀 レセプトデータを用いた脊髄空洞症における移行期医療の実態調査
- 5月26日 地域で支えるパーキンソン病治療を考える会（Web 配信）

本間早苗：実臨床でのパーキンソン病治療戦略

5月29日 深浦彦彰：多発性硬化症が起こるしくみ、MS キャビン（You tube 配信）

6月3日 ノバルティスファーマ株式会社埼玉講演会

深浦彦彰：MS 治療戦略の UP Date

6月6日 アレクシオンファーマ株式会社講演会

深浦彦彰：クラスター期から始める C5 阻害治療戦略

6月10日 ノバルティスファーマ株式会社札幌講演会

深浦彦彰：ケシンプタ投与症例の考察

6月10日～11日 第4回日本メディカル AI 学会学術集会（トークネットホール仙台）

江口克紀：電子カルテ病歴文書と自然言語処理モデルを

利用した神経変性疾患の予測に関する

検討

6月15日 中外製薬株式会社 講演会

深浦彦彰：新規抗体治療薬がもたらす希望

6月23日～25日第59回日本リハビリテーション医学会学術集会（パシフィコ横浜ノース）

飯田有紀：在宅練習に咳嗽練習サポートアプリケーションを使用し咳嗽力の改善を得たパーキンソン病患者の一例

7月12日 北海道トレリーフライブ配信講演会

田代 淳：パーキンソン病におけるトレリーフについて

7月12日 神経疾患リハビリテーション シリーズ Web 講演会 第3回

飯田有紀：嚥下障害患者さんの評価方法

7月21日 ノバルティスファーマ株式会社札幌講演会

深浦彦彰：ケシンプタの投与症例を考える

7月21日～23日 第16回パーキンソン病・運動障害疾患コンGRESS

（浜松町コンベンションホール）

田代 淳：Orthostatic tremor に対する膝サポーター装着の効果に関する検討

8月24日 神経疾患リハビリテーション シリーズ Web 講演会第4回

飯田有紀：嚥下障害患者さんの嚥下訓練と環境調整

8月26日 中外製薬株式会社 青森県八戸講演会

深浦彦彰：NMOSD；新しい標準治療とは

8月27日 北海道 WEB 市民公開講座

～パーキンソン病・レビー小体型認知症ってどんな病気？～

濱田晋輔：パーキンソン病（PD）と

レビー小体型認知症 (DLB) との相違点とは

- 9月1日 Neuroscience Web Seminar 他職種連携シリーズ 第1回
野中道夫：筋萎縮性側索硬化症とはどんな疾患なのか、今できることはなにか
- 9月2日 さいたま補体 C5 フォーラム (NMOSD)
深浦彦彰：クラスター期から始める
C5 障害治療戦略～NMOSD の Relapse free を目指して～
- 9月6日 中外製薬株式会社 北海道講演会
深浦彦彰：北海道の医療を考える
- 9月10日 バイオジェン・ジャパン株式会社講演会
深浦彦彰：エキスパート医師からの症例ディスカッション
- 9月13日 神経疾患リハビリテーション シリーズ Web 講演会 第5回
飯田有紀：パーキンソン病を含む神経変性疾患の嚥下障害診療
- 9月13日 エフピー株式会社社内講演会 (TKP 札幌駅前カンファレンスセンター)
深浦彦彰：北海道の医療を考える
- 9月14日 ちとせ介護医療連携カレッジ (NPO ちとせの介護医療連携の会)
野中道夫：パーキンソン病と
パーキンソン関連疾患 (非定型パーキンソン) について
- 9月28日 北海道パーキンソン病・COMT-Inhibitor 研究会
本間早苗：パーキンソン病におけるオンジェンティス錠の使用経験
- 9月29日 これからの進行期パーキンソン病治療を考える会
濱田晋輔：リハビリテーションと多職種連携
- 10月4日 Neuroscience Web Seminar 多職種連携シリーズ第2回
飯田有紀：パーキンソン病を含めた神経変性疾患の嚥下障害診療について
櫻村祐哉：ALS 患者さんのコミュニケーション支援
- 10月4日 バイオジェン・ジャパン株式会社八王子講演会
深浦彦彰：多発性硬化症治療アップデート
- 10月5日 北海道レビー小体型認知症 Web 講演会
廣谷 真 ディスカッション
- 10月11日 県中西部脳神経内科地域連携の会 (ホテルクラウンパレス浜松)
濱田晋輔：パーキンソン病におけるリハビリテーションの多様性
～楽しくわくわくするリハビリと新しく期待されるリハビリ～
- 10月14日 2022 Progress in Human Immunology and Multiple Sclerosis Research,
Yale University, New Haven, CT, USA

H. Fukaura: Safety and efficacy of rituximab in neuromyelitis optica spectrum disorders (RIN-1 study): a multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled trial.

10月20日 第4回 東葛北部パーキンソン病を考える会

濱田晋輔：パーキンソン病におけるリハビリテーションの多様性

10月22日 日本視神経脊髄炎患者会

深浦彦彰：NMOSD とこころ

10月25日 Neuroscience Web Seminar 多職種連携シリーズ第3回

武井麻子：脊髄小脳変性症の非運動症状と person centered care

～ 寄り添いたいのに疲れてしまう貴方へ

10月27日 Parkinson Disease Update Seminar Online

本間早苗：パーキンソン病の治療経験 ー薬物治療との関連ー

11月2日 第40回日本神経治療学会学術集会（郡山市）

シンポジウム5「多発性硬化症（MS）の最新治療戦略」

廣谷 真：パンデミック下、パンデミックを

乗り越えるMS診療における地域連携の在り方

11月2日 第40回日本神経治療学会学術集会（郡山市）

深浦彦彰 座長 マラソンレクチャー1

「脳神経内科医がAI研究のスタートライン立つまで～神経疾患のAIを中心に～」

11月2日 第40回日本神経治療学会学術集会（郡山市）

武井 麻子：8年間にわたり5-HT1A agonist の

drug holiday 効果を認めた SCA3 の1例

11月5日 北海道大学医療 AI シンポジウム

江口克紀：深層学習を用いた構音障害の鑑別診断

11月10日 第一三共株式会社青森講演会

深浦彦彰：片頭痛の最新治療

11月17日 Neuroscience Web Seminar 多職種連携シリーズ第4回

深浦彦彰：視神経脊髄炎（NMOSD）について

廣谷 真：多発性硬化症の診療と医療連携

11月18日 第10回日本難病医療ネットワーク学術集会 ランチョンセミナー

深浦彦彰：MSの生活をデザインする ー治療と Shared Decision Makingー

11月24日（木）19:00～20:00 北海道パーキンソン病医療懇話会

濱田晋輔 座長

仙石錬平：嗅覚障害から見えてきたパーキンソン病

11月30日 中外製薬株式会社 北海道講演会

深浦彦彰：VUCA時代のNMOSD再発予防ー生物学的製剤の位置付け

12月6日 エーザイ株式会社 北海道講演会

深浦彦彰：パーキンソン病の診断と治療 MAOB3剤について；エクフィナ症例

12月8日 AJOVY Forum 2022 in Sapporo

濱田晋輔 座長

深浦彦彰：片頭痛診療とCGRF関連薬の使用経験

12月13日 Neuroscience Web Seminar 多職種連携シリーズ第5回

飯田有紀：パーキンソン病を含む神経変性疾患疾患の嚥下障害診療

馬道健弘：運動失調症に対する作業療法士の関わり

鹿野 咲：脱髄性疾患に対するリハビリテーション

12月15日 PD&DLB Baton Lecture

濱田 晋輔 座長

江口 克紀：脳神経内科診療におけるAIの活用～当院の試み～

<2023年度>

2月4日(土) Total Care Seminar for PD(アッヴィ合同会社田町本社)

濱田晋輔：パーキンソン病患者さんにおけるACPへの取り組みについて

2月20日(月) Neuroscience Web Seminar 多職種連携シリーズ第7回

飯田有紀：パーキンソン病を含む神経変性疾患疾患の在宅嚥下診療ポイント

3月3日(金) 19:00～19:50 北海道トレリーフライブ配信講演会

濱田 晋輔 座長

市川 忠 先生：パーキンソン病遠隔リハビリテーションに向けての取り組み

3月11日 第35回埼玉脊椎・脊髄病研究会

深浦彦彰：特別講演 I 座長 Treatable neuropathy 2023

3月13日 バイオジェン・ジャパン株式会社 多発性講演会 Web 講演会

深浦彦彰 オープニングスライド 座長

【社会活動】

<検診・医療班派遣>

1. 濱田晋輔：令和4年度利尻礼文在宅難病患者訪問検診、稚内保健所、2022/11/7-9

【教育関係】

<講義>

1. 武井麻子・本間早苗・野中道夫：札幌医療リハビリ専門学校夜間部講義、「1)神経内科総論 2)脊髄小脳変性症 3)多系統委縮症 4)高次脳機能障害 5)遺伝子性末梢神経障害 6)自己免疫性疾患（中枢性） 7)自己免疫性疾患（末梢神経） 8)筋疾患 9)絞扼性神経障害」、2021/9-2022/3

(2) 神経難病リハビリテーション部門

理学療法領域、作業療法領域、言語聴覚療法領域での活動を報告し、【研究業績】、【教育活動】、【社会活動】と2022年度医療用HAL実施実績にわけて報告する。

【研究業績】

<論文>

1. 熊谷隆人、三好友佳、西海颯一郎、田代淳、廣谷真、森若文雄：パーキンソン病患者の嚥下障害を早期検出するための他覚的臨床評価実施の必要性 言語聴覚研究 19 (4) : 340-347, 2022
2. 太田経介、中城雄一、森若文雄：予期不安をもつパーキンソン病患者のすくみ足に対する認知行動療法と運動療法を組み合わせた介入効果 ケーススタディー, 理学療法ジャーナル 56(6) : 738-743, 2022
3. 太田経介、中城雄一、森若文雄、萬井大規：予期不安を持つパーキンソン病患者のすくみ足に対する認知行動療法と運動療法を組み合わせた介入効果—ケーススタディー 理学療法ジャーナル 56 (6) 738-743 2022
4. 熊谷隆人、廣谷真、飯田有紀：神経筋疾患の嚥下障害に関わる言語聴覚士の視点、難病とケア 28 (12) 38-42, 2023

<全国学会発表>

1. 太田経介、後村圭太、中城雄一、森若文雄、萬井大規：Pisa 徴候を呈するパーキンソン病患者の感覚再重み付け能力の傾向—ケースシリーズ, 第63回日本神経学会学術大会(東京) 2022
2. 坂野康介、太田経介、成田雅、後村圭太、野田貴暉：脊髄小脳変性症における立位姿勢制御の特性, 第20回日本神経理学療法学術大会(大阪) 2022, 10, 15~16
3. 太田経介、後村圭太、中城雄一、森若文雄：5つの運動機能からみた側屈姿勢を呈するパーキンソン病患者の歩行特性と主観的視性垂直との関連, 第20回日本神経理学療法学術大会(大阪) 2022, 10, 15~16
4. 成田雅：パーキンソン病の起居動作能力低下の関連要因の解明, 第20回日本神経理学療法学術大会(大阪) 2022, 10, 15~16
5. 飯島健介、坂野康介、中城雄一、飯田有紀、森若文雄、濱田晋輔：パーキンソン病患者の歩行障害に対する随意運動介助型電気刺激装置使用による歩行練習の有効性 ～シングルケースデザインによる検証～, 第16回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres、2022.7.22

<研究会発表>

1. 本間冬真：パーキンソン病の更衣障害における“ぎこちなさ”について考えてみた，第26回北海道神経難病ケースカンファレンス、2022. 8. 25、オンライン
2. 飯島健介、渡邊大貴、中城雄一、飯田有紀、野中道夫、森若文雄、濱田晋輔：球脊髄性筋萎縮症患者における HAL 医療用下肢タイプを用いた歩行治療の長期的効果 ～6年間のフォローアップによる症例報告～，第11回日本脳神経 HAL 研究会、2022. 12. 10、オンライン
3. 成田勝：標準的理学療法（起居動作）について，第16回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス PD 遠隔リハビリテーション研究会 2022, 7, 21～23、東京

<講演>

1. 熊谷隆人：発話・嚥下の障害に対する訪問リハビリテーションの関わり，パーキンソン病地域医療連携セミナー2022、2022. 9. 8 オンライン
2. 萩原大悟：パーキンソン病初期における外来リハビリテーションの関わり，パーキンソン病地域医療連携セミナー2022、2022. 9. 8 オンライン
3. 太田経介：小脳性運動失調における歩行評価の現状と課題 定量評価の確立にむけて，日本小脳学会、2022, 9, 25、オンライン
4. 檜村祐哉：第2回Neuroscience Web Seminar 多職種連携シリーズ ALS患者に対するコミュニケーション支援，北網圏域難病対策地域協議会、2022, 10, 4、オンライン
5. 成田雅：パーキンソン病患者の Unmet Medical Needs に対する理学療法介入の現状と今後の課題，第20回日本神経理学療法学会公開シンポジウムVIII、2022, 10, 15～16
6. 奥滝優太：札幌市西区中央区の顔が見える連携強化研修会，北海道作業療法士会札幌支部西中ブロック、2022. 10. 28 オンライン
7. 馬道健弘：第5回Neuroscience Web Seminar 多職種連携シリーズ 運動失調に対する作業療法士の関わり，北網圏域難病対策地域協議会、2022. 12. 13、オンライン
8. 鹿野咲：第5回Neuroscience Web Seminar 多職種連携シリーズ 脱髄性疾患に対するリハビリテーション，北網圏域難病対策地域協議会、2022. 12. 13、オンライン
9. 鹿野咲：第226回技術講習会 神経難病に対する制度活用と生活支援，北海道理学療法士会、2023, 2, 18 オンライン
10. 稲童丸卓：パーキンソン病の転倒予防に対する環境整備と福祉用具の活用，札幌市中央区難病研修会，札幌市中央区保健福祉部、2023, 3, 15 オンライン

11. 太田経介：パーキンソン病患者のリハビリテーション 病態から見る運動障害（歩行・姿勢制御障害）の理解，リハオンデマンド、オンライン
12. 成田雅：パーキンソン病のリハビリテーション～当院の取り組みについて～，パーキンソン病のチーム医療について考える会、協和キリン株式会社、2023, 3, 24、札幌

【教育関係】

<講義>

1. 本間冬馬：作業療法概論Ⅲ 作業遂行能力の評価，札幌リハビリテーション専門学校、2022, 7, 1
2. 鹿野咲：神経難病とリハビリテーション，札幌リハビリテーション専門学校、2022, 10, 6
3. 坂野康介：神経障害理学療法学，北海道リハビリテーション大学校、2022. 11. 8、11. 15

<臨床実習受入>

- 北海道脳神経内科病院・・・27名
 - 理学療法科・・・18名
 - 作業療法科・・・6名
 - 言語療法科・・・3名
- 札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック・・・2名
 - 理学療法科・・・3名

<研修受け入れ>

札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック 作業療法科・・・1名

南札幌脳神経外科病院 作業療法士 1名 2023年1月から3月 合計6日間

【社会活動】

<社会活動>

1. 藤田賢一：苫前町在宅ケア事業，北海道総合在宅ケア事業団・苫前町、2022, 5, 26、2023, 2, 1～2, 2
2. 馬道健弘：個別ケア会議参加，西区役所、2022, 6, 29
3. 馬道健弘：関節痛（肩・首）の予防に効果がある運動について，西区二十四軒地区スマイル体操サークル、札幌市西老人保健センター、2022, 7, 12
4. 馬道健弘：介護が必要になる原因と予防に必要な運動，琴似はつらつ健康サークル、琴似会館、2022, 8, 17

5. 工藤育恵：ポラリス・ハイブリッドカフェ, NPO 法人みんなのポラリス、2022, 8, 20 オンライン
6. 小林拓司、近野登弥：パーキンソン病友の会交流イベント, 北海道大学サテライトキャンパス、2022, 9, 23
7. 馬道健弘：腰痛・膝痛予防について, 二十四軒東第 10 町内会、琴似コーポ集会室、2022, 9, 27
8. 成田雅：北海道難病検診、利尻・礼文 2022. 11. 7～11. 9

<HAL 実施報告>

北海道脳神経内科病院・・・	25例
筋萎縮性側索硬化症	4例
筋強直性ジストロフィー	4例
脊髄小脳変性症	4例
球脊髄性筋萎縮症	3例
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3例
進行性筋ジストロフィー	2例
ネマリンミオパチー	2例
顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー	1例
シャルコーマリートウス病	1例
家族性脊髄性筋萎縮症	1例

札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック・・・8例

球脊髄性筋萎縮症	2例
筋強直性ジストロフィー	2例
封入体筋炎	2例
筋萎縮性側索硬化症	1例
進行性筋ジストロフィー	1例

<その他>

有馬恭平、中城雄一、飯田有紀：CIDP マイライフ CIDP 患者さんのための Let's リハビリテーション, 出演・監修 CSL ベーリング株式会社、2022

(3) 神経難病看護・ケア部門

院外・院内研究会参加、看護部教育を報告する。

1. 【研修会参加状況】

【院外研修】

日 時	研修テーマ	主 催	参加者
2022年7月25日～ 26日	(Web研修) < JNA収録DVD研修 > 災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～研修会」	北看協	1名
2022年8月31日	(Web研修) < 社会保険診療報酬算定要件研修 > 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 2022 改訂版 (第2～5回) 研修会	北看協	1名

【院内研修】

日 時	研修テーマ	講 師	主 催	参加数 (看護職/全体)
2022年12月	セラチア菌による感染症	院内感染対策委員会	院内感染対策委員会	全員
2022年12月	看護補助者の業務に理解 日常生活に関する業務 看護補助業務の基礎知識 個人情報 病院の機能 医療制度	看護管理室	ヘルパー教育システム委員会	助手全員
2023年1月 27日	アンガーマネジメント	接遇コンサルタント 岡本 真なみ	ハラスメント委員会	主任以上の管理者

看護部教育

日 時	研修テーマ	参加者	担 当
2022年5月11日	リーダーシップ	2階 3名 3階 2名	教育担当
2022年10月5日	ラダー I KYT研修	2階 2名 3階 3名	教育委員
2022年2月1日	ラダー I、II 救急看護研修	2階 3名 3階 1名	教育委員

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門

【年間事業計画】

1. 医療機関訪問

COVID-19 感染の流行前までは、他医療機関との連携が円滑に行えるように当部署の役割分担を院外に周知するという目的と、医療機関の情報収集と連携強化を行う目的で医療機関を選定し、訪問する予定だったが、今年度も実施が困難と判断した。訪問という手段をとることが出来なかったが、目的を果たすために、日常的に連携してくださっている医療機関等には文書や電話等の手段をとり、当院・当部署の役割について周知を行い、患者様に関する情報収集は継続して行うことができた。

次年度以降は、感染対策を実施しながら、医療機関訪問活動を実施できるよう努めたい。

2. サロン活動

COVID-19 感染症による感染対策の継続が予測されており、対面での活動自粛を踏まえて、各チームで担当を決めて活動に励んだ。また、当院ホームページ（以下 HP）内にサロン活動のアピールをする目的で専用ページを開設することができた。

(1) 患者・家族向けのサロン

テーマは「“食”を通じて患者さんをサポート」として、当院管理栄養士へインタビューを行い『広報誌あうる』を作成した。内容としては、当院における管理栄養士の役割や栄養指導の実際についてのインタビューした内容をまとめ、管理栄養士監修の下で嚥下障害があってもおいしく安全にカロリー摂取のできるレシピの紹介や経腸栄養剤の飲み比べランキングなどを紹介。また、当部署が地域のスタッフとどのように連携を図っているのかを掲載したり、当部署部長からのメッセージをまとめている。目標配布部数を大きく上回り、143部を配布することができた。感染状況の中、なかなか当院職員と患者様、患者様同士の交流という場の提供が難しい状況であった。次年度からは、少しずつ以前のような交流ができるよう、様々な手段で活動を継続する方法を検討していきたい。

(2) 在宅療養支援者向けのサロン

昨年度の課題を活かし、今年度はオンラインサロンを2回開催することができた。

①2022年9月12日 17:30～19:30

札幌市内全域の居宅支援事業所ケアマネジャーを対象に、テーマを『パーキンソン病の理解』とし、当院医師による疾患講義と意見交流会を行った。

②2023年2月17日 17:30～19:30

1回目と同様の対象者に、テーマを『脊髄小脳変性症の疾患理解』と『院外連携』とし、当院医師とMSWによる講義と意見交流会を行った。

意見交流会が活性化できるよう、ケアマネジャーに職種を定めて参加を募った。1回目も2回目も17事業所から合計29～31名の参加があった。サロン運営に関しては、通信機器のトラブルもみられるが、開催を重ねるごとに参加者も主催側も双方ともに習得されてきている。より円滑に企画をするために、丁寧な振り返りと課題抽出・対策を継続していきたい。

感染状況に関わらず、オンラインでのサロン開催については、双方の移動問題などがクリアされ、負担が少ないと感じられることが多いため、サロン開催の手段の一つとして、今後も継続できればと考える。

3. 院内研修・研究活動

今年度は、COVID-19感染の影響に加え、人員減少による体制不備により、資料配布という形をとることも困難であると判断し、活動は休止した。

また、下記の講義・講演の依頼もあり、協力をさせて頂いた。

月 日	担当者	名 称
2022年4月20日	小林 陽子	当院の医療ソーシャルワーカーの役割と支援について (理学療法士の実習生への講義)
2022年2月7日	小林 陽子	当院の医療ソーシャルワーカーの役割と支援について (研修医師への講義)

4. 地域社会福祉活動

【検診や医療相談】

月 日	担当者	名 称
2022年 11月7日～9日	小林 陽子	令和3年度神経難病患者訪問検診 ～礼文町、利尻町、利尻富士町 (北海道稚内保健所利尻支所)

【研修会・学会参加】

月 日	参加者	名 称
2022年4月6日	河野 光香	パーキンソン病 多職種連携 WEB 勉強会 (武田製薬株式会社)
2022年4月25日	小林 陽子	医療ソーシャルワーカーキャリアラダー研修会 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2022年4月27日 (オンライン)	小林 陽子	Hokkaido Diversity Management Web-Seminar～治療と仕事の 両立支援における現状・課題・展望～ (武田薬品工業株式会社)
2022年6月9日 (オンライン)	小林 陽子 河野 光香	第267回西区在宅ケア連絡会定例会 「地域における連携～MSWの視点から～」 (西区在宅ケア連絡会)
2022年6月11日 (オンライン)	小林 陽子	2022年度北海道ブロック現場実習実践研究セミナー 実習指導者フォローアップ研修 ソーシャルワーク実習の枠組みと北海道における展開 (公益社団法人 北海道社会福祉士会)
2022年6月25日 ～6月26日 (オンライン)	河野 光香	第70回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会 (日本医療ソーシャルワーカー協会)
2022年7月9日	中山 幸歌	第65回 北海道医療ソーシャルワーク学会 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2022年7月23日 (オンデマンド)	中山 幸歌	実践講座「退院支援」「社会の変化に対応するソーシャルワーク ～コロナ禍の経験から考える～」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2022年8月6日 (オンライン)	中山 幸歌	第47回難病患者・障害者と家族の全道集会(札幌大会) (一般財団法人北海道難病連)
2022年8月6日 (オンライン)	河野 光香	社会情勢の変化に合わせたソーシャルワーク実践について (北海道医療ソーシャルワーカー協会 中央E支部)
2022年8月20日 ～8月21日	下川 満智 子	第27回日本難病看護学会学術集会 (日本難病看護学会)
2022年9月10日	中山 幸歌	令和4年度両立支援コーディネーター基礎研修 (独立行政法人労働者健康安全機構)
2022年9月17日	河野 光香	第6回 ALS Café Web セミナー

(オンライン)	小林 陽子	(東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野)
2022年9月17日 (オンデマンド)	中山 宰歌	実践講座「意思決定支援に関する研修会」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2022年9月30日 (オンデマンド)	中山 宰歌	「誰もができる研究発表 ～発表に向けたデータ収集・分析の方法を学ぼう！～」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2022年11月10日 (オンデマンド)	小林 陽子 中山 宰歌	「両立支援～病気の療養と復職・復学を支援する～」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2022年11月26日 (オンデマンド)	小林 陽子	ソーシャルワーク理論～実践と理論の結びつきについて～ (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2022年12月21日 (オンライン)	河野 光香	中央区在宅ケア連絡会「外来支援と医療介護連携」 (西区在宅ケア連絡会)
2023年1月7日 (オンデマンド)	小林 陽子 中山 宰歌	指導者の評価方法を考える～指導者育成の観点で、ラダーと照らし合わせて評価基準を考える～ (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2023年1月14日 (オンライン)	河野 光香	調査研究・実践報告会 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2023年1月21日	河野 光香	人生会議 (ACP) の基本 (WEB) (北海道在宅医推進支援センター)
2023年2月11日 (オンデマンド)	小林 陽子 中山 宰歌	「スーパービジョン研修会」 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2023年2月25日	河野 光香	地区懇談会 (後志地区) 京極町における在宅医療介護連携の取り組み (WEB) (北海道医療ソーシャルワーカー協会 中央E支部)
2023年3月4日 (オンデマンド)	小林 陽子	養成校教育と現任教育の在り方 (一社：北海道医療ソーシャルワーカー協会)
2023年3月18日	河野 光香	地区懇談会 (札幌地区) 医療介護連携について 個別支援と地域ネットワークづくり (WEB) (北海道医療ソーシャルワーカー協会 中央E支部)
2023年3月30日	河野 光香	感染対策再考～対策の緩和・継続の検討にあたって～ (WEB) (手稲区在宅ケア連絡会)

4. 北海道神経難病研究センター主催講演会

神経難病セラピストのための座談会

1. 第42回 2022年5月24日(火) 19:00~20:00 WEB開催

「ネットワークを広げよう！ その人を知ろう！」

Part 1 北海道脳神経内科病院(旧、北佑会神経内科病院)を紹介


参加者数：30名

**第42回神経難病
セラピストの座談会**
～オンライン交流会～

テーマ
「ネットワークを広げよう！ その人を知ろう！」
Part1:北海道脳神経内科病院(旧:北佑会神経内科病院)を紹介

2022年5月24日(火)
19:00~20:00
申込〆切り:2022年5月23日(月)

写真や動画を使って皆さんの職場をお互いに知りましょう！
今回は北海道脳神経内科病院(旧:北佑会神経内科病院)
について職場紹介をします！
その後、グループに分かれ交流を深めましょう。

実施方法:事前に『Zoom』環境のご準備をお願いします。
参加の申し込みはこちらから⇒ 

申し込み用URL: <https://bit.ly/37PF8s9>

主催: (一財) 北海道神経難病研究センター 北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ: 座談会幹事 馬道
E-mail: kanai@kanai-hokkaido.or.jp

2. 第43回 2022年7月26日(火) 19:00~20:00 WEB開催

「ネットワークを広げよう！ その人を知ろう！」

Part 2 札幌パーキンソンMS神経内科クリニックを紹介


参加者数：29名

**第43回神経難病
セラピストの座談会**
～オンライン交流会～

テーマ
「ネットワークを広げよう！ その人を知ろう！」
Part2:札幌パーキンソンMS神経内科クリニックを紹介

2022年7月26日(火)
19:00~20:00
申込〆切り:2022年7月25日(月)

神経難病のリハビリテーションを頑張っているセラピストの皆さんの職場をお互いに知りましょう！
今回は、札幌パーキンソンMS神経内科クリニックについて職場紹介やリハビリの様子をお話します！その後、グループに分かれ交流を深めましょう。

実施方法:事前に『Zoom』環境のご準備をお願いします。
参加の申し込みはこちらから⇒ 

申し込み用URL: <https://00m.in/YTfhz>

主催: (一財) 北海道神経難病研究センター 北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ: 座談会幹事 馬道
E-mail: kanai@kanai-hokkaido.or.jp

3. 第44回 2022年9月27日(火) 19:00~20:00 WEB開催

「ネットワークを広げよう！ その人を知ろう！」

Part 3 定山溪病院を紹介


参加者数：39名

**第44回神経難病
セラピストの座談会**
～オンライン交流会～

テーマ
「ネットワークを広げよう！その人を知ろう！」
Part3：定山溪病院を紹介

2022年9月27日(火)
19:00～20:00
申込〆切り:2022年9月26日(月)

神経難病のリハビリテーションを頑張っているセラピストの皆さんと顔の見える関係を作りましょう！
今回は、定山溪病院の職場紹介やリハビリの様子をお話します！その後、グループに分かれ交流を深めましょう。

実施方法:事前に『Zoom』環境のご準備をお願いします。
参加の申し込みはこちらから ⇒ 

申し込み用URL:<https://00m.in/5wTpJ>

主催：(一財)北海道神経難病研究センター-北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 藤道
E-mail：0242-6411210@kaiho-hiroshima.ac.jp

4. 第45回 2022年11月22日(火) 19:00~20:00 WEB開催

「ネットワークを広げよう！ その人を知ろう！」

Part 4 札幌西円山病院を紹介

参加者数：34名

**第45回神経難病
セラピストの座談会**
～オンライン交流会～

テーマ
「ネットワークを広げよう！その人を知ろう！」
Part4：札幌西円山病院を紹介

2022年11月22日(火)
19:00～20:00
申込〆切り:2022年11月21日(月)

神経難病のリハビリテーションを頑張っているセラピストの皆さんと顔の見える関係を作りましょう！
今回は、札幌西円山病院の職場紹介やリハビリの様子をお話します！その後、グループに分かれ交流を深めましょう。

実施方法:事前に『Zoom』環境のご準備をお願いします。
参加の申し込みはこちらから ⇒ 

申し込み用URL:<https://00m.in/aIBeV>

主催：(一財)北海道神経難病研究センター-北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 藤道
E-mail：0242-6411210@kaiho-hiroshima.ac.jp

5. 第46回 2023年2月21日(火) 19:00～20:00 WEB開催

「ネットワークを広げよう！ その人を知ろう！」

Part5 埼玉リハビリテーションセンターの紹介 ～神経難病センターについて～


参加者数：36名

case@satnet-hokkaido-trnd.jp'."/>

第46回神経難病セラピストの座談会
～オンライン交流会～

「ネットワークを広げよう！ その人を知ろう！」
Part5: 埼玉県総合リハビリテーションセンターの紹介
～神経難病センターについて～

2023年2月21日(火)
19:00～20:00
申込×切り:2023年2月20日(月)

神経難病のリハビリテーションを頑張っているセラピストの皆さんと顔の見える関係を作りましょう！
今回は、埼玉県総合リハビリテーションセンター(神経難病センター)の職場紹介やリハビリの様子をお話します！その後、グループに分かれ交流を深めましょう。
実施方法:事前に『Zoom』環境のご準備をお願いします。
参加の申し込みはこちらから⇒ 

申し込みURL: <https://00m.in/hatZI>

主催: (一財) 北海道神経難病研究センター 北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ: 座談会幹事 藤達
E-mail: case@satnet-hokkaido-trnd.jp

北海道神経難病ケースカンファレンス

1) 幹事

北祐会神経内科病院：坂野康介、太田経介、高橋美博、本間冬真、藤田賢一、中城雄一

北海道医療大学：岩部達也

訪問看護ステーションソレイユ：奥山真純

札幌西円山病院：松岡寛樹

2) 例会活動

① 第26回ケースカンファレンス 2022年8月25日 Web開催

参加者数：73名

「パーキンソン病における更衣動作の“ぎこちなさ”について考えてみた」

発表者：本間（北祐会 OT）

司会：岩部（北海道医療大学 PT）

コメンテーター：

高橋（札幌 MS パーキンソン神経内科クリニック OT）、太田（北祐会 PT）

② 第27回ケースカンファレンス 2022年11月2日 Web開催

参加者数：97名

「在宅パーキンソン病患者のすくみ足に対する介入再考」

発表者：鈴木（訪問看護リハソレイユ PT）

司会：太田（北祐会 PT）

コメンテーター：

奥山（訪問看護リハソレイユ PT）、

相馬（札幌 MS パーキンソン神経内科クリニック OT）、坂野（北祐会 PT）

③ 第 28 回ケースカンファレンス 2022 年 3 月 15 日 Web 開催

参加者数：70 名

「パーキンソン病患者における発話の難易度調整」

発表者：檜村（北祐会 ST）

司会：岩部（北海道医療大学 PT）

コメンテーター：幹事全員＋工藤（北祐会 ST）

第11回 北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会 WEB開催

2022年10月7日 13:30~15:00

座長：森若文雄

「パーキンソン病に対する摂食嚥下リハビリテーション」

東京医療学院大学 保健医療学部リハビリテーション学科

理学療法学専攻 准教授 内田 学 先生

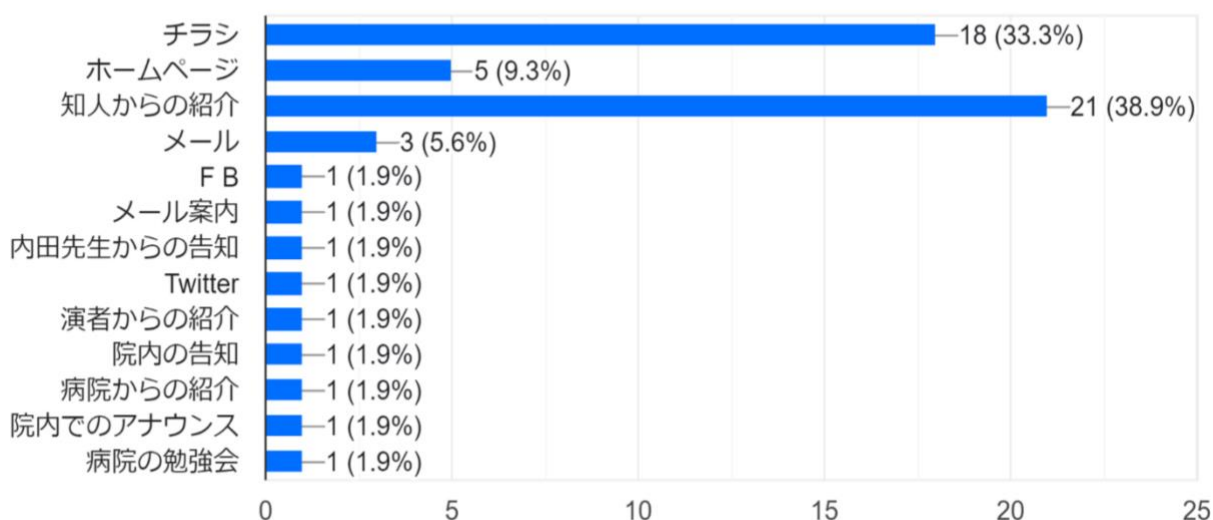
参加者：184名

参加者(総数)	
184	
アンケート回答数	
56	回答率
	30.43478261
参加内訳(職種別)	
医師	10
歯科医師	1
歯科衛生士	6
看護師	3
薬剤師	1
鍼灸マッサージ師	1
理学療法士	72
作業療法士	23
言語聴覚士	32
管理栄養士	1

参加者内訳(都道府県別)	
北海道	56
千葉県	12
東京都	12
愛知県	10
大阪府	8
山口県	7
神奈川県	6
福岡県	6
青森県	3
滋賀県	3
兵庫県	3
鹿児島県	3
栃木県	2
福井県	2
静岡県	2
和歌山県	2
広島県	2
大分県	2
茨城県	1
群馬県	1
埼玉県	1
京都府	1
奈良県	1
鳥取県	1
徳島県	1
長崎県	1

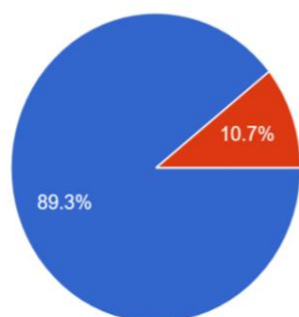
講演会を何で知りましたか？

54 件の回答



開催方法はいかがでしたか？

56 件の回答



● 良い
● 普通
● 悪い

開催方法	
良い	89.30%
普通	10.70%
悪い	0%

開催方法について、ご意見・ご要望

遠方からも参加しやすいのでサテライト開催だと良いと思います。

開催場所によっては、web からの参加もできると、大変ありがたく感じております。

今回の方法で良かったと思います

ハイブリッド形式でよいが、動画や音声が入った部分もあったため、現地でのビデオ撮影とその録画視聴ができるとうれしいです。

本日も講演頂きましたうちの姿勢保持・補正の為に体幹ストレッチ、座位でのストレッチ介入など具体的な方法についてもう少し詳細に伺いたいと思いました

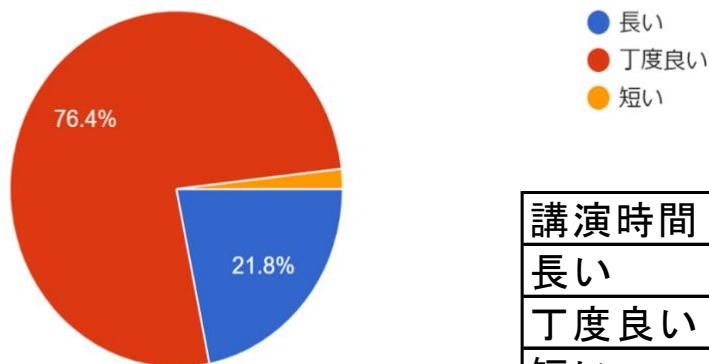
自分のネット環境の影響なのかわかりませんが、いつもの講演より途中途切れることがあった。

移動せずに講演に参加でき助かります。子育て世代には参加しやすいです。

Zoom にて Web 配信を希望(現地訪問困難のため)

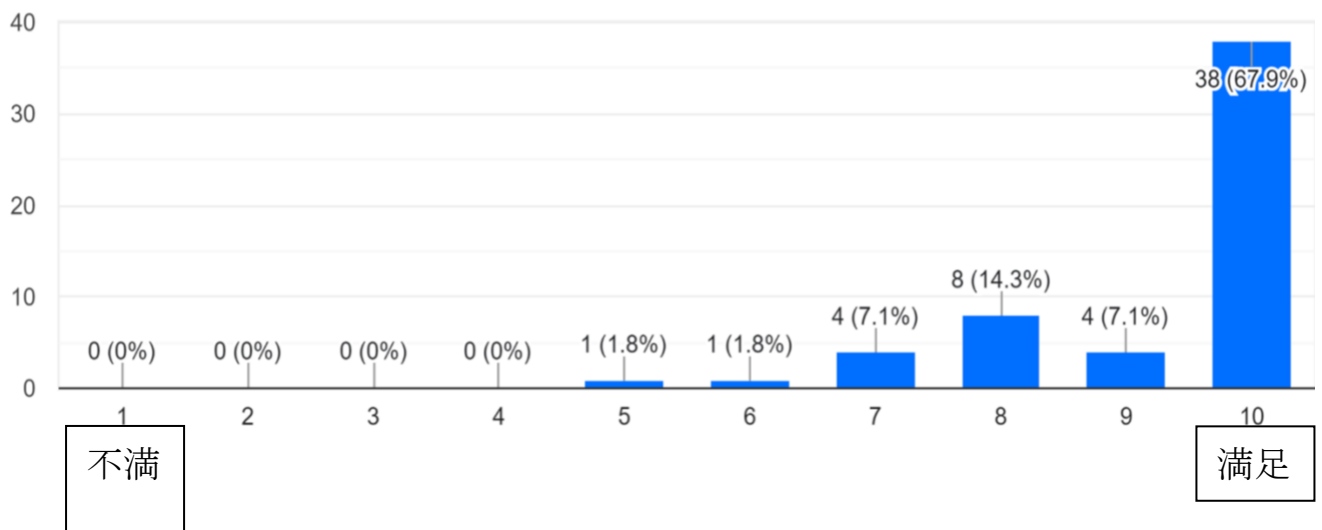
遠方でも参加出来てとてもありがたいです
ハイブリッド式を希望します
参加しやすい開催時間帯でした
良かったと思います
今回と同じが良いです。
現地開催の良さを実感したので、今後外部の方でも感染対策しつつできる設定を模索したいです。
ハイブリッド開催はいいと思う。

講演時間(90分のwebinar)の長さはいかがでしたか
55件の回答



講演時間	
長い	21.80%
丁度良い	76.40%
短い	1.80%

講演の内容はいかがでしたか？
56件の回答



○今後取り上げて欲しいテーマ

神経難病の巧緻動作について
バランス改善、高次脳機能障害
介護保険領域のパーキンソン患者が長期在宅生活を達成するために在宅生活継続困難の因子や入院リスクなどについて
パーキンソン病患者様の気分障害の介入方法について
神経難病や脳卒中に対する摂食嚥下リハビリテーション
レスパイト等で入院した時に在宅より離床時間が減る印象があります。リハビリ場面以外での生活の組み立てを多職種でできる提案、活動面へのリハビリ職の貢献について。
多職種向けのリハビリの勉強
神経難病患者の呼吸機能維持、メンタルケア、食欲増進方法について
多系統萎縮症のリハ職としてのかかわり方
外来リハでの生活指導
PD,SCD の栄養障害
パーキンソン病の消耗制御障害について
巧緻動作について
リハ栄養
パーキンソン病の体重低下、栄養
上肢機能訓練について

○講演の感想

画像が乱れが多かったのが少々残念でした
ありがとうございました。
評価の部分がもう少し欲しかったです。
他職種との連携の難しさを感じていましたが専門分野以外のところにもめをむけることで具体的にどのような事を他職種と連携を取ればいいかが明確になり、視野が広がった様に感じます。
とても興味深く、あっという間の時間でした。PT も嚥下に関わることの大切さを再認識させて頂く貴重な時間となりました。ありがとうございました。
大変、勉強になりました。このような学ぶ機会を頂き本当にありがとうございました。明日から、患者さんの笑顔をとりもどせるよう臨床に生かしていきたいと思えます。
自身の日常診療について姿勢の重要性は認識していましたが呼吸に関する取り組みが不十分であると痛感しました。

骨盤が後傾してしまう原因の1つに、ハムストリングが関係している事を初めて知りました。
内田先生、素晴らしいご講演をありがとうございました。大変勉強になりましたし、チームとして取り組む必要性を痛感しました。私の場合は理学療法士ですので、姿勢を作り土台作りをできるように精進します。
明日からの臨床に役立つ話題で大変勉強になりました。日々患者さんと接していく中で低位舌の方が多く、低位舌が嚥下のパフォーマンスに影響が出ることは理解できていましたが、なぜそのようなになっているのか気になっていました。先生のご講演を聞いて納得が出来ました。姿勢についても日々考えながら嚥下リハビリテーションを行っていきたいと思います。大変貴重なご講演をありがとうございました。
勉強になりました。理学療法士も姿勢や呼吸機能を土台とした嚥下リハにもっと貢献できそうだと確信しました。
パーキンソン病の死亡原因が誤嚥性肺炎が多く、死亡率といったアウトカムでは誤嚥性肺炎を発症することがリスクの増加につながるといった内容を知れてよかったです。またパーキンソン患者における摂食・嚥下障害がある方の身体的特徴、運動機能との関連を知れてよかったです。
口腔器官の可動域は姿勢が影響すると日ごろから思っていたので、実際の症例からわかりやすく姿勢と摂食嚥下機能との関連性をお話しいただいて理解が深まりました。
パーキンソン病の病態から身体機能特徴、具体的現象、リスク、理学療法の進め方、期待することまで、ユーモアがありわかりやすく簡潔に説明されて楽しく聴講できました。
日常の訪問業務の中で摂食嚥下に関して看護師と他事業所 ST に任せてしまっていた現状があり、それを改める必要があることを再認識しました。
摂食嚥下リハビリテーションを行う上で理学療法士が土台となり多職種と連携し横断的に取り組んでいく必要があると感じました。
とても分かりやすく実臨床にすぐに役立つ内容で、大変参考になりました。またご講演を拝聴したいと思いました。
嚥下だけではなく、姿勢等に関する情報もあり分かりやすく勉強になった。 講師の内田先生は、時間超過されたということを気にされていましたが、長いと感じずに聴講出来ました。ありがとうございました。
訪問では1人で担当するため、ST/OTの視点に加え看護や介護者との共同にもなります。アプローチとして提案できる事が増えました。
姿勢の大切がわかった。実践でも確認していきたい
舌骨下筋のトレーニングの効果など知り、普段のリハビリで PT でも嚥下に貢献できることがあるとわかり非常に勉強になりました。

PT が姿勢調節をどのような視点でどのように行うかを、具体的に見たかったです 途中から音声のみになってしまいパワポが小さくしか表示されなかったので資料の提供があると わかりやすいと思いました。
摂食嚥下障害において姿勢がどのように関係するのか、また、言語聴覚士以外のセラピストがど のように関わっていくものなのかがわかりとても興味深かったです。
改めて理学療法士として摂食嚥下リハに関わりたいと感じた
理学療法では意識の向きにくい嚥下に関して、姿勢との関連やその重要性について学ぶとても 良い機会となった。
理学療法士も嚥下障害の問題点に積極的に関わる必要があると感じた。
作業療法士ですが、噛み砕かれた内容でとてもわかりやすかったです。
食事と姿勢の関係についての知見を広げる機会になりました。今後姿勢観察の際は食事の時に この姿勢はどうなのかということを意識し介入していければと思います。
ハムSTRINGの話とても参考になりました
わかりやすくとても勉強になりました。さすが内田先生です。ガッテン！ガッテン！
とても聴講しやすく、理学療法士として嚥下に関われることがあると再度理解出来ました。
嚥下障害については理学療法士が関わる場面はなかなか少ないと思っていましたが、姿勢やポ ジショニングなどで大きく関わっているということが分かりました。とても勉強になりましたので、今 後の介入に活かして行きたいと思います。
多職種向けの話でもあり、専門性も高い。わかりやすい内容で満足しました
とても勉強になりました



第11回
北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会
サテライトカンファレンス

参加費無料

日時

2022年10月7日(金) 18:00~19:30

オンライン配信講演会

製品紹介 トレリーFOD錠について 住友ファーマ株式会社

特別講演

座長

一般財団法人 北海道神経難病研究センター
センター長
森若 文雄 先生

「パーキンソン病に対する摂食嚥下リハビリテーション」

演者

東京医療学院大学 保健医療学部リハビリテーション学科
理学療法学専攻 准教授
内田 学 先生



オンライン視聴方法は
裏面をご参照ください

本講演会は医療従事者向けの講演会となります。
一般の方はご視聴にはなれませんので
あらかじめご了承くださいませ、宜しくお願い申し上げます。

SMP-Approved



共催：北海道神経難病研究センター 住友ファーマ株式会社